

お元気ですか

つかじさちの

メール便

第1050号



日本共産党高知県議会活動報告マガジン
2022年10月30日発行
電話 088-823-9524 (議会控室)
088-843-9281 (自宅)

食材支援にも子ども食堂基金を

秦泉寺 あや 69 (高知市八反町)

「わらにもすがる思いでここに来ました」と子育て中のお母さんの言葉が胸に突き刺さる。夫の暴力、失業、不登校、親の介護、母親の不調などで心身をすり減らしたお母さんたちが助けを求めて次々とやってくる。

7年前に地域の子どもたちの居場所づくりのために始めた子ども食堂だが、コロナ禍で弁当支援もできなくなり、3年前から週2回の食材支援に切り替えた。それまで週1回の子ども食堂では分らなかった現実があった。おなかのすいた子どもたちに、おなか

つぶい食べさせてあげられないという母の嘆きだ。子育て中のお母さんを中心に支援したいとたくさんの方たちから寄付を頂き、支援をさせてもらっているが、70世帯もの支援がいつまで続けられるのか。不安に思っていたところ、県の子ども食堂基金が約4千万円もあると知って驚いた。

その基金を、子ども食堂の食事の提供だけでなく、子ども食堂のない日にも安心してご飯が食べられるように、食材支援にも基金を使える工夫をお願いしたい。

子ども食堂基金 食材配布支援必要

塚地 佐智氏

塚地氏 全国に先駆けて県が創設した「子ども食堂支援基金」の現状は。子どものいる世帯へ食材を届ける活動にも補助金交付を拡大できないか。

山地和子氏・福祉政策部長 基金を設置した2017年3月から21年度までに受けた寄付額約3600万円のうち、約1千万円を子ども食堂

の補助金に活用している。22年5月末時点の基金残高は原資など約1400万円を合わせ3971万円。新型コロナウイルス禍を契機に市町村社協やNPOによる食材の配布や宅配が広がっているが、基金は食事の提供を通じた居場所づくりを支援するもので、食材配布は対象でない。ただ、こうした活動はNPOや民間団体などに広がり、現在は県社協がフードバンク活動団体などと連携して支援している。県の支援のあり方を今後検討したい。

なるがも日記

No.1048



9月県議会で、上記の質問を行いました。コロナ感染の中、食料支援を何とか続けなければ、「子ども食堂」のみならず取り組んだ食材の届け支援継続できるよう、県としての積極的な対応を質問の最後に強く要請しました。ぜひ実現して欲しいと思います。

楽しかった♡3年ぶりの城南三町秋まつりのダンス



今朝の地元紙に辛い記事がありました。子ども食堂の食料支援のために置いておいた食材が持ち去られていたという内容です。

「黙って持っていかな」と相談していただいたのにも関わらず、話の向うで悲しい声で主催者の方が話して下さいました。

物価や社会保険料がガンガン値上がり、年金や収入は減少する中、くわーの大変さが限界にきていることを痛感する出来事。誰もが安心してくらせる政治にかえる責任を改めて決意しています。